

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）  
拠点病院集中型から地域連携を重視したHIV診療体制の構築を目標にした研究  
分担研究報告書

**研究分担課題**

患者が地域の保険薬局を選んだ時に対応できるシステム作りに関する研究

研究分担者 鈴木 貴明 千葉大学医学部附属病院 薬剤部 副薬剤部長 講師  
研究協力者 築地茉莉子 千葉大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤師

**研究要旨：** 処方箋に基づき薬剤を調剤・交付する役割のある保険薬局において、地域連携を図る際の課題を明白とするとともに、実践可能なモデルや方法を提案する。

**A．研究目的**

現在、抗HIV薬の調剤はHIV診療拠点病院近隣の保険薬局を中心に行われている。今後地域連携が推進された場合、患者が地域の保険薬局（いわゆるかかりつけ薬局）での調剤を希望することも想定される。このような場合にすべての保険薬局がスムーズに抗HIV薬の調剤に対応できるシステムを構築する。

**B．研究方法**

平成30年度の調査にて把握した千葉県内の自立支援医療（更生医療）指定薬局、ならびに現在抗HIV薬を調剤している千葉県内外の保険薬局212施設に対し、薬剤の在庫管理状況、服薬指導の実際、病院との連携体制などについて質問紙による調査を行った。なお、本調査は千葉大学大学院医学研究院倫理審査委員会の承認を受けて（受付番号3282）実施した。

また、抗HIV薬に関する服薬指導で特に重要な項目について、千葉県HIV拠点病院会議 薬剤師部会で協議を加えながら検討した。

**C．研究結果**

質問紙による調査から保険薬局薬剤師は、抗HIV薬の服薬指導においてプライバシーへの配慮など特有の課題を持ちつつも患者のアドヒアランス向上のために多くの必要事項を確認し、患者に伝えていることが明らかとなった。一方、抗HIV薬の服薬指導の実績を積んでいる薬局でも、困っていることが多いことが明らかとなった。この調査で挙げた項目を千葉県HIV拠点病院会議 薬剤師部会で協議し、保険薬局における抗HIV薬に関する服薬指導で

特に重要な項目として決定した。

質問紙調査から、高額医薬品の欠品・返却は、系列薬局のみならず近隣薬局や卸などに対応しているが、「在庫」ならびに「在庫情報」の共有はしていても系列薬局間に限局されていることが明らかとなった。

**D．考察 E．結論**

服薬指導時の重点項目が明らかとなったことで、経験の少ない保険薬局薬剤師であってもスムーズに抗HIV薬の服薬指導が行えることが期待される。

系列薬局をもたない個人や小規模経営薬局においては、高額医薬品である抗HIV薬の在庫管理に課題が残ると考えられた。よって今後は、系列薬局をもたない個人や小規模経営薬局においても抗HIV薬の在庫管理への負担が軽減できるよう、抗HIV薬を含む高額医薬品について在庫情報の共有ができるシステムを構築することが必要と考えられた。

**G．研究発表**

1. 論文発表 日本エイズ学会誌に投稿予定
2. 学会発表 築地茉莉子 他、自立支援医療（更生医療）指定薬局の抗HIV薬処方応需状況に関する調査、第33回日本エイズ学会学術集会・総会

**H．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）**

1. 特許取得  
予定なし
2. 実用新案登録  
予定なし
3. その他  
特になし